

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291200034		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	御殿場ケアセンターそよ風(富士ユニット・箱根ユニット 合同)		
所在地	静岡県御殿場市萩原122-13		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	平成24年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2291200034&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成23年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設しているDSでの運動機器の使用や個別に行なっている機能訓練で機能低下防止に努めている。日常生活では、役割をもっていただく事で協力し合い、お互いを認めあっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道246号にも近く、富士山を眺める静かな住宅地に事業所は立地している。運営法人が合併したため名称を変更し今年3月、新規に指定認可を得ているが、職員や利用者の大幅な入れ替えはなく、気持ちも新たに運営を開始している。事業所の取り組みとして、要介護度が悪化しても歩行など出来る動作を継続するため支援をおこなっている。例えば生活動作が困難だった利用者も、機能訓練をすすめたことにより状態が改善し、要介護度が下がった例もある。地域との親交も深く、近所にある保育所では散歩コースになっていることもあり月1回程度は訪問してくれている。乳幼児とのふれあいの機会に利用者からは「可愛い」と好評である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ間で話し合い作成された理念は、共有され日々取り組んでいる。	前法人の際に作成した理念を継続して掲げているが、法人変更と同時に基本憲章を定めている。理念の浸透として、出勤簿の表紙に「運営理念」「グループホーム理念」が掲示され、職員は毎日自然に目を通すことになっている。ユニットごとの目標も定めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	民生委員さんを通じて、老人会や地域活動に参加させてもらい交流出来ている。	市主催の福祉イベントに出展したり、区のふれあい祭りでは利用者の創作した作品を展示している。また、服薬についての講習会に参加し、近隣からは十数名もの参加があった。そのほかにも地域清掃に参加したり、近所の祭典では神輿がくるなど地域との親交が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんを通じて、地区の活動に役立つ事がなか話し合い取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議において運営状況の報告を行い、助言をいただきサービス向上に努めている。	運営推進会議では民生委員の協力により、地区の行事や防災訓練に事業所が参加する橋渡しができている。また家族代表からは介助に関する相談もあったり、地域包括からは事業所としての評価も得られるなど運営の参考や励みになっている。	消防署職員など、運営推進会議に多様な参加が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らない事や協力してもらいたい事等、頻回に行き協力してもらっている。	市役所には直接出向いて運営推進会議の議事録を届けたり事前案内を出して、市からは年2回程度、職員の出席がある。市役所にも近いので、風水害の時には防災課の職員から協力の申し出もあった。4ヶ月に1回開催している、市主催の連絡会にも出席し、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が認識出来るよう資料、ビデオ、勉強会を行い、身体拘束にならないようケアしている。	身体拘束ゼロ宣言をしていて、入口は施錠していない。職員は身体拘束についての外部研修に参加し、事業所内で資料を回覧している。スピーチロックについては身体拘束に該当する場合があるとして、その都度指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修を行い学ぶ機会を多くしている。職員全員で話し合い、虐待にならないよう確認している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門書や知識のある職員が説明し、職員全員が理解でき、活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ご利用者、ご家族に十分説明し、ご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1度の家族会や運営推進会議等で意見交換し、運営に反映している。	3ヶ月に1回家族会を開催し、認知症についての勉強会などをおこなっている。買い物や公衆トイレで介護中の表示について家族から相談があり、運営推進会議で議題に挙げたところ「介護中」の札を周知する機会につながった例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、グループホーム会議、ユニット会議において話し合い、運営に反映している。	職員はユニット会議や全体会議で意見を自由に発言できている。また、所属する委員会でも積極的に発言している。職員は個々に年間目標を立てて半年ごとに自己評価をおこない、個別面談も年2回は実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行い、向上心をもって働けるよう話し合い、評価を行う事で給与、賞与の見直しを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や社内研修を受ける機会を多くし、職員一人ひとりの育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが、同業者との訪問、見学を通して交流している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から話を聞き、職員と信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族は、十分話し合い、困り事、不安事、求めている事を受け止められるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者がご本人、ご家族の要望を受け止め、必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護するのではなく、日々の生活の中で教え合い、協力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	頻繁に来所、外出して頂き、職員では足りないメンタル面で協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談し、実現出来るよう支援している。	立地条件もよいため、家族・知人は普段から頻繁に面会に来てくれる。習字など趣味の継続も、家族の協力も得て叶っている。手紙や電話での連絡も支援し、友人や知人との付き合いが継続されていて、中には同窓会への参加もあるという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で出来る事、出来ない事をお互い協力し合えるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も利用者様やご家族が必要とされる支援をし、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書にご本人の要望を取り入れ、日常的コミュニケーションの場においても、ご本人の思いを受け入れている。	入所前に、家族や関係者から出来るだけ生活歴を聞き取り、意向を把握している。「家庭的であっても家庭ではない」として、利用者一人ひとりの意向に沿った生活をめざしている。利用者の発語はそのままの文面で記録し、朝夕の申し送りでも共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境等、ご本人やご家族から情報を頂き、これまでの経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を観察、記録し会議を通して共有している。個々を尊重し、その方のペースに合わせて過ごして頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から意見を聞き担当者、計画作成、看護師等で話し合い介護計画書を作成している。	職員は1~2名の利用者を担い、担当者が計画作成のための意見を出している。家族に対してはおおむね3ヶ月に1回の頻度で支援経過を説明し、また家族からも意見を聴取して計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記入を徹底し、職員は常に記録に目を通し、申し送りノートを活用している事で介護への実践、計画書の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望に応じられるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報を頂、活動や協力体制を作っている。毎月、数回ボランティアの方々に来所頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の月2回の往診を受けている。地域医療連携室と連絡をとり、急変時対応など適切な医療を受けられるよう支援している。	原則として受診については家族に依頼しているが、状況により職員が同行している。協力医の往診が月2回あるため、医師と看護師とは普段から連携が保てている。受診の結果は看護記録、個人ファイルなどに記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、日常の健康管理を行なっている。受診が必要な時は、専門的見地から医療機関の連絡し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じて協力病院と情報交換をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に話し合い、説明を行なっている。重度化や終末期のあり方においては、月2回の往診時、ご家族に同席して頂き方針を共有している。	往診時は家族に同席してもらっていることにより、利用者の状態を把握することができ、医師にも家族の意向を表すことができている。重度化しても継続して利用できているため、医師や地域包括職員からも「認知症などが重度化しても受け入れができています」との評価を得ている。	(AEDの導入を望んでいるとのことなので)AEDの導入が認められた場合は、職員や地域住民への研修の機会をもち、地域の資源として活用されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは、すぐに見られるところにあり、看護師から応急手当や注意点の助言をうけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において民生委員さん、地域包括に働きかけている。地域防災訓練に参加、年数回の防災訓練や夜間の防災訓練も実施している。	民生委員の協力も得て、利用者と一緒に避難訓練を重ねていて、夜間にも防災訓練を実施している。また、地域の防災訓練にも職員が参加し、炊き出し訓練などに協力している。震災を機に、水や食料等の備蓄が進んでいる。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いやスタッフ間で注意し合えるようにしている。また、記録についても徹底している。	法人内での定期的な通達もあり、プライバシー確保の定期的な見直しをおこなっている。接遇については新人職員の指導を重点的におこなっていて、全体会議でも管理者が中心となって話し合っている。利用者同士が対立した場合は、職員がそれぞれの主張を尊重して対処している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを受け止め、自己決定を促しながら選択肢の中から選んでいただき、納得していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の思いを尊重し、その方のペースに合わせて支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、外出時の整容の支援、定期的に散髪をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを配慮し、メニューを作成。季節の食材を取り入れ、準備から片付けまでお手伝いいただき手作りを楽しんでいる。	食材の買い出しには利用者も同行している。昼食はデイサービスと同じ献立のため、朝、夕は利用者の希望を取り入れて献立を考案している。調査時にも食前に担当職員が元気よく嚙下体操をおこない、食後は職員と一緒に利用者も片付けをしている様子を視認した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量、その都度記録し、一人ひとりの状態に応じ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施。義歯の方は毎日消毒している。出来ない方は、介助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録等から排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた誘導、介助をおこなっている。トイレでの排泄を基本とし、不快なく過ごせるよう支援している。	「トイレでの排泄」を方針としている。排泄は自立している利用者も多いが、一部は声掛けや誘導をおこなっている。薬の副作用を減らしたことにより、リハビリパンツから布パンツに改善できた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や調理を工夫したり、運動等を取り入れたりしている。また、水分量の確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間については、希望に合わせている。希望のある方には毎日入浴して頂いている。	希望があれば毎日入浴できる。また、併設するデイサービスには大きな浴槽もあり、利用者によってはデイサービスの浴室で入浴することもある。利用者の状態に応じて、手すりやシャワーチェアも活用して入浴が継続できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床から食事、就寝までの1日のリズムはあるが、その方の希望、状況に応じて休息や睡眠をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の服薬状況、薬剤情報を共有し看護師管理の下で服薬支援、病状の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望を聞き、楽しみや喜びを持って頂けるように計画を立て実施している。日常生活で役割を持って頂く事で自身に繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行事を計画し、外出したり、個別対応にて買い物、散歩、外出に出掛けている。ご家族にも協力頂いている。	天気が良ければ毎日、所有する畑の付近や近所の公共施設などを散歩している。また、少人数ごとに自動車で近くの市民公園などに出かけている。曜日を決めて家族の支援で外出する利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行き、ご自分の欲しい物、必要な物を選び、ご自分の財布から支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやり取りは、希望に応じて行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に利用者様と作った季節ごとの作品を飾ったり、ホワイトボードに日付、写真等を貼っている。共用空間は不快のないよう配慮している。	共用空間は行事の飾り付けや、創作した作品の展示がおこなわれている。棚をカーテンで目隠ししたり、テーブルのレイアウトを工夫するなど、美しく快適に生活できる工夫がみられた。また、職員が各自で選択して着用している鮮やかなカラーのエプロン姿が家庭的な印象をうけた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、お一人で過ごされたり、仲の良い方同士でお話されたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具を持ち込んで、その人らしい居場所を作って頂いている。	居室の入口は、利用者ごと分かりやすくするために小物が飾られるなどの工夫がある。居室の窓は広く、ナースコールや洗面台も整備されている。仏壇を持ち込んだり、カーペットを敷いて洋風に過ごす居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、壁には手摺が設置され、自立した安全な生活が出来るようにしている。		